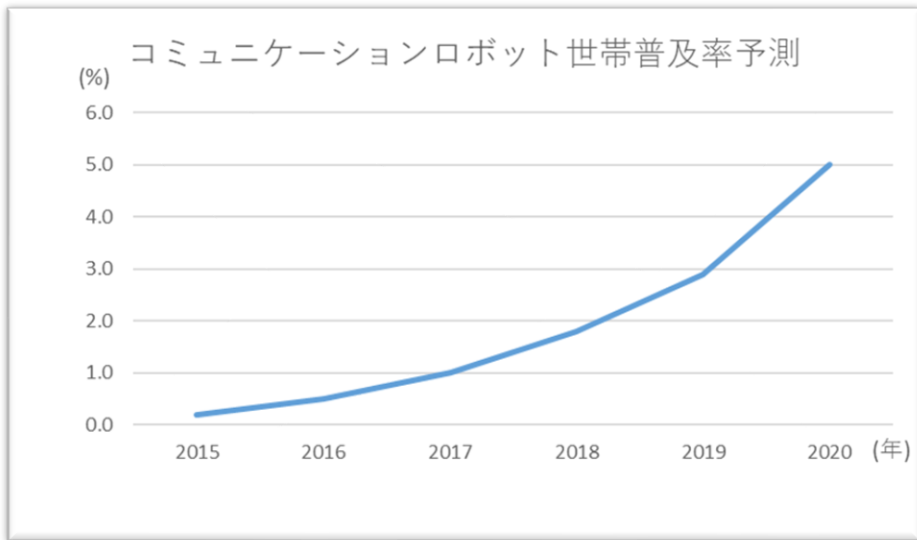


「AIが仕事を奪う」はウソ!?

仙台第三高等学校 工学 A-4班

序論

現代の発展した社会において大きな注目を集めている人工知能、通称「AI」情報社会となってしまった世界が、これからどのように変化していくのかを予測できれば、この世界を生きるために必要な考え方を学べると思い、このテーマに決めました。



*コミュニケーションロボット 例) ペッパー、ロビ、アイボ

目的

AIという第三者が産業に加わったことによって生まれる変化はどのような形で私たちに影響を及ぼすのかを予測し、必要な人材を考察する。

AIが普及した社会の変化を予測



理想の人材をイメージ

方法

- Step1 (1) AIがどのように進化してきているのか
(2) 今、企業においてどのような使われ方をしているのか
(3) 将来的にどのような場面、場所で使いたいのか
(4) そこに生じる利点と問題点
- ↓ これらを調査、考察
- Step2 (1) 具体的に何かの産業分野に当てはめる
(2) どのような影響が生まれるのかを考察
(3) 実際に当てはめると『適応できると考えられる人材』を考察
- Step3 (1) 理想的な人材を考察した後、その人材になるために必要なスキルを可視化
(2) そのスキルを身につけるために今何を意識して学ぶべきかを考察する

まとめ・結論

これから理想となる人材



- ・ 創造性を発揮できる
- ・ リーダーシップを持つ
- ・ 人の感情を理解し、取り扱える
(例) 芸術家、経営者、カウンセラー

私たちの推測

AIを作る経緯

無駄な時間を減らしたい

費用がかからず、仕事をこなせる

AI (人間のような機械) を作ろう

今後のAIの実用例予測

教育の現場にAIが導入された場合 (タブレット学習)

生徒の問題の正誤のデータ化

それらをビッグデータとして処理

一人一人の苦手分野に合わせた問題作り

教育面でAI導入後も活躍する人材



カウンセラーや人間性を育てる人

参考文献

望月 亮輔 「2020年のコミュニケーションロボット普及率・市場規模予測 ～5年後、国内約265万世帯が所有へ～」 ロボスタ, 2015年9月9日 (最終閲覧日: 2018年9月21日)